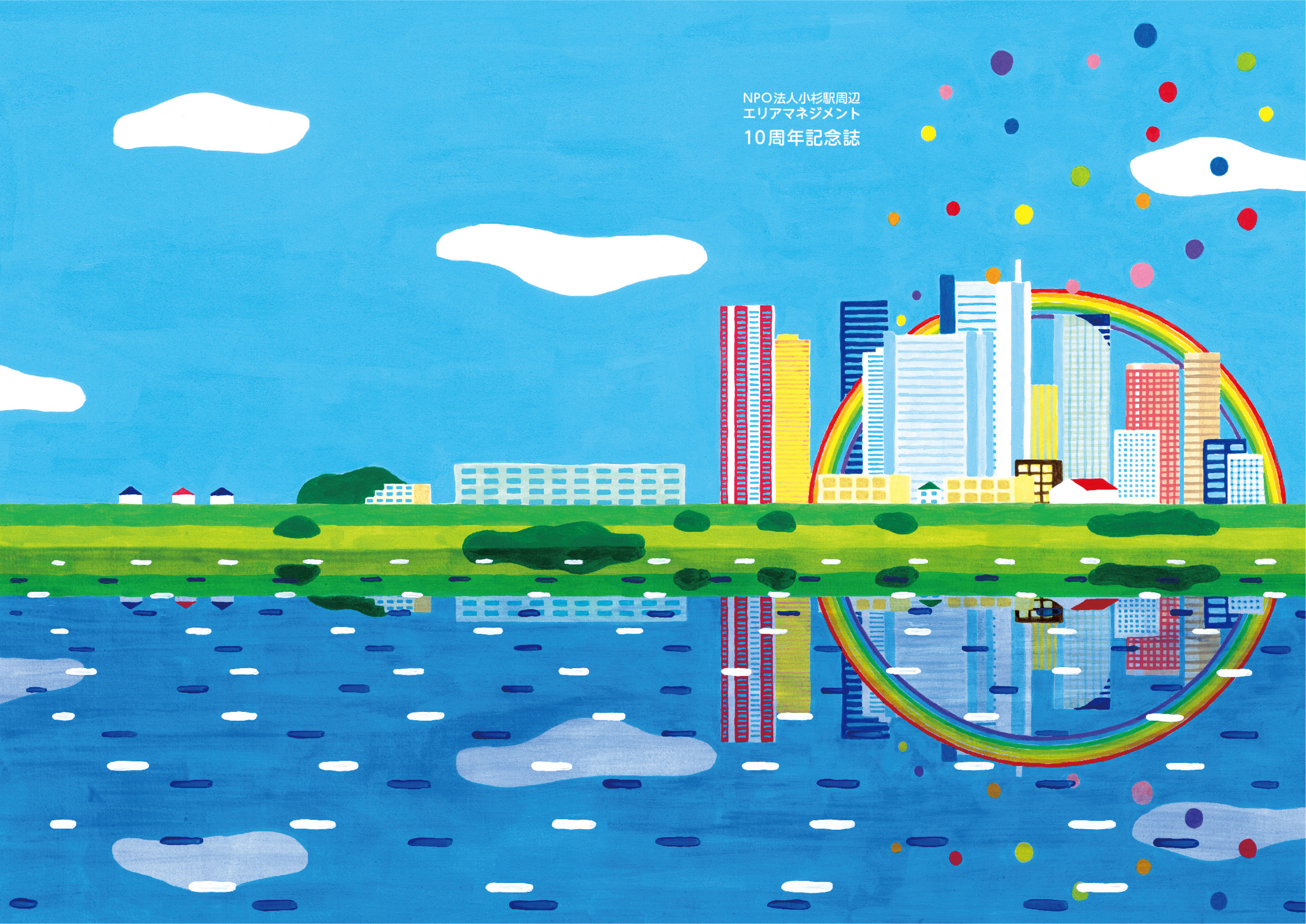
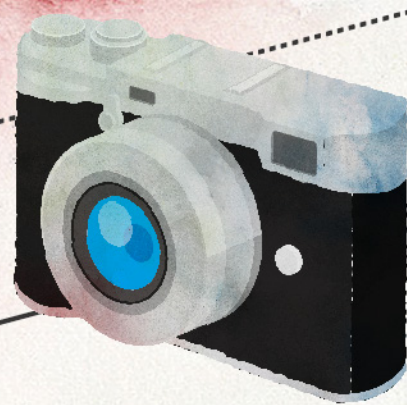


NPO法人小杉駅周辺
エリアマネジメント
10周年記念誌



武蔵小杉 写真コンテスト

地元住民だからこそ撮れた傑作ショットの数々



2

第2位 「ここが故郷」

撮影者 | サキパパ

武蔵小杉の林立するビルの中から射す夕日に、お子さんをシルエットで重ねて、素敵な瞬間を捉えました。この子の「ここが故郷」という気持ちに後光が差しているようで、心に残る作品になりました。



第1位「月を釣る」

撮影者 | 武蔵小杉観測隊

「お月様を釣っちゃった!」という楽しいアイデアが素晴らしいです。下に見えるビルもこれから建つところで、これから武蔵小杉がどんどん発展していくだろうという夢や願いが感じられますね。

杉本恭子

東京都出身。コンピューター会社でシステムエンジニアに従事後、自然の崩壊に心を痛め、風景写真を撮り始める。竹内敏信氏に師事。2003年フリーの写真家となり東京、名古屋を拠点に、写真教室や撮影会を行っている。わかりやすく楽しい説明と「風を撮る写真家」として定評がある。日本、海外の自然、里を中心に、独自の柔らかな視点で表現する写真には、ファンが多い。長野県阿智村、三重県熊野にて写真を通しての地域おこしにも携わる。個展「彩り季節風〜光に誘われて〜」(キャノンギャラリー)他多数開催。著書に「撮り歩き 旅の写真術」(新星出版)他多数出版。日本写真家協会会員。日本写真協会会員。キャノンEOS学園講師。カメラのキタムラ審査員。他多数。株式会社PHOTO JOY代表。2015年8月阿智村にギャラリー兼喫茶フォトコミュニケーション「彩り季節風 GOKA彩りの里」をオープン。NHKBSテレビ「アROUND TOKYO!」に審査員として出演中。



3

第3位 「異空間」

撮影者 | デジアナX氏

なかなか見られない非常に珍しく幻想的な風景ですね。上からでない決して狙えないアングルです。2つのクレーンが「これからビルが建っていく」ことを感じさせています。まるで雲上の都市建設のようで、夢のある素敵な作品になりました。



MUSASHIKOSUGI
PHOTO CONTEST

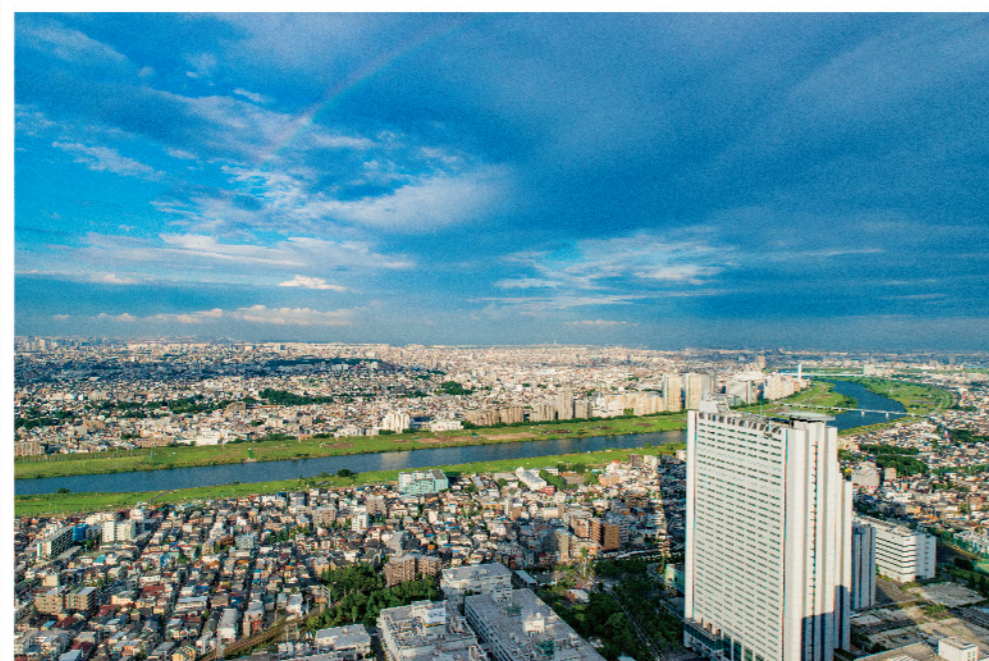


4

第4位「虹」

撮影者 | motoy

日本ってなんて綺麗なんだろうと思わせる作品ですね。まず青い空が目飛び込んできました。手前の多摩川に光る青と緑、上には虹が走っています。夢ある美しい場所に武蔵小杉があることが、この一枚の写真に詰まっていますね。



第5位「タワーより高く」

撮影者 | ドセンノメガネ

イベントでチアガールの方が力強く演技をされている風景です。今ではこの場所での開催ができず思い出に残る映像です。またこのような活気のあるイベントを是非やってほしいですね。

全体を通して

力のある作品が多いことに驚きました。しっかりと武蔵小杉を見ていらっしゃいます。今回は昼間の作品が多かったですが、美しい夜景にもチャレンジしていただきたいと思います。肖像権の問題などありますがお子さん、ご家族、お友達など笑顔たくさん撮っていただきたいですね。



審査委員長 プロフォトグラファー 杉本 恭子 審査員 エリマネ広報ワーキンググループ

あなたの武蔵小杉の10年

武蔵小杉に住み始めたきっかけはシンプルに交通アクセスの良さから。でも、ご近所さんに等々力でのサッカー観戦を勧められてからは、川崎フロンターレにすっかりハマリ。気づけば観戦後センターロードの大衆居酒屋でジョッキ片手にサポーター仲間と熱く語らう生活に。メタボ改善にと気まぐれで多摩川河川敷を走ったり、地域コミュニティ活動に関わって地元仲間を増やしたり、自然も人のパワーも満載で色んな可能性がある武蔵小杉に僕は魅了され続けています。

ハンドルネーム | タクミン

私は、この街に生まれたときから住んでいる。今から、10年以上前だと「武蔵小杉に住んでいます」と言っても、「あー、武蔵小山？」ってな感じ。20階のタワープレイスができたときは、自宅のTVが電波障害をおこして写りが悪くなったり。それが、いまや「住みたい街」の上位に。この10年、いろんな人との出会い、多くのコミュニティ活動に携ってきた。住みたい街から住み続けたい街へ！これからも多くの皆さんとともにこの街を盛り上げてゆきたい。

ハンドルネーム | ひろみ55

「小杉に住んで……」

約半世紀近く前の小杉を知る人からすればこの地域（特に東横線の南側一帯）の変貌には眼を見張るものがあり、今や「住みたい街」ランキング上位の常連であるこの街のタワーマンションに住んで五年程になるが、住む事を決めた理由には「日本一」と係わりがありそれは「富士山」が見られることである。小杉から見ると富士山は西南西の方角にあり、いつの頃からか良く耳にする「ダイヤモンド富士」が年に二回見られる。条件が揃えば（太陽がでている・太陽が山頂にかかる時間帯に雲がない等）、毎年二月と十月の下旬の二日間夕方に見ることが出来る。小杉から見ると富士山は西の位置にあるので見られるのは「サンセットダイヤ」である。富士山に限らずタワーマンションのスカイデッキから眺める夕間暮れ〜マジックアワーの時間帯の景色はいつ見ても飽きない。これが小杉の街……。

ハンドルネーム | デジアナX

コスギフェスタは2019年に開催9年目を迎える。駅前のこすぎコアパークに場所を移して復活した盆踊り大会は、5年目を迎える。地域のイベントも継続すればやがてそれが街の文化、歴史になっていく。10年前に今の武蔵小杉を想像できなかったように、10年後の武蔵小杉はきっと想像を超えていく。変わっていく中で、街のお祭りが継承される未来を時々想像する。

ハンドルネーム | シチュー

2010年秋に海外赴任から帰国してそのまま武蔵小杉駅で下りてから私の武蔵小杉ライフが始まりました。最初は、知り合いもなく、右も左もわからず、自分の住居の場所さえもわからないこの土地でしたが、10年の間にこの土地でたくさんの素晴らしい人と出会い、今や昼も夜も楽しい武蔵小杉ライフを過ごしています。もう、この街以外は住む気にもなれない気持ちです。これからの10年も武蔵小杉が「ひとと交流できる街」として皆が楽しい生活を送れるように育てていきたいですね。

ハンドルネーム | コスギレジェンド

ここに越して来て10年経つ
こんなに長く住んだとこはない
たくさんの人と出会い、共に生き、
多くを学ぶ
一緒に汗を流す仲間も出来た
生きる喜びを感じる
これはこの街のおかげか？
ここに集う人のおかげなのか？
気持ちよい風が吹いている

ハンドルネーム | Lじゃないロッカー

「叶う」

今から数十年前のカミさんの一言が、心に残った。それは、「東京タワーの見える所に住みたいね」という言葉だった。勿論、その頃はスカイツリーなんて話は遠い未来の事だろう。神田生まれ・育ちのカミさんには東京タワーは格別であったのだろう。年月は流れ、東日本大震災後暫くして、コスギのタワーマンションに移り、朝な夕なにベランダから東京タワーを眺めているがスカイツリーよりはるかに存在感がある。この眺望は素晴らしいの一言である。

ハンドルネーム | 野崎

武蔵小杉のタワーマンション群は遠くからでも見つけることができるので、展望台や高層ビル、山頂や飛行機から武蔵小杉を探す。そして見つかる「あった！」とんだかちよと嬉しくなる。10年の間にタワーマンションの数はどんどん増え、群の存在感はさらに増してきた。全部のマンションが見える角度はどこだろうかと探したりしている。マンション開発はまだ続いているので、今後も群の像は変化していく。そうした変化をこれからも眺めていきたい。

ハンドルネーム | 飯田

ハンドルネーム | ハッピーアワー

武蔵小杉に住んで10年目を迎えます。武蔵小杉を居住に選んだのは、二人の娘が私立の中学に通いやすい場所だから…でした。「何処に行くにも便利」そんな捉え方でした。10年経った今、「利便性」だけでは言い表せないこの土地。人と人の温かいコミュニティがある…ぜひこの街のコミュニティを覗いていただきたい…そんなイベント沢山武蔵小杉を選んで良かったと思える今日この頃です。

ハンドルネーム | 愛犬大好きそら



エリマネ 10年 歴代事業

H19 継続中

■エリマネ設立

川崎市まちづくり局の主導のもと、居住者がほとんどいなかった小杉再開発地域に、マンション間の連携を図り、地元の住民と協力し、地域価値の向上を図っていく住民主体の組織として設立した。

H21 終了

■自転車放置防止活動

東急武蔵小杉駅周辺で駐輪場への誘導、放置自転車の整理整頓を行い、歩行者の安全確保を図った。

H21 継続中

■エリアマネジメント連絡会議始まる

月に1回会員マンション理事会の代表メンバーとエリマネ代表者が集まり、エリマネ・行政・地域からの情報を伝達し、またマンション間で関心事の情報共有、意見交換を行っている。

H22 - H23 終了

■花・心アレンジメントサロン

フラワーアレンジメント教室を通じた新旧住民の交流を図ることにより、地域のコミュニティの活性化させる活動を行った。

H22 独立

■おしゃべり相談・おしゃべり電話始まる

小杉駅周辺住民を対象に対人関係や生き方の悩みなどについて話せる場を提供している。リピーターも多い。

H23 継続中

■交流会ワーキンググループ始まる

地域住民同士の交流を目的に、憩いの場、情報交換の場を企画するワーキンググループ。様々な企画が生まれた。

H22 継続中

■防災ワーキンググループ始まる

会員マンションの防災担当者が定期的集まり情報交換を行うとともに、高層マンション特有の防災上の課題を整理し、対応策を検討している。

H22年11月 継続中

■ちょっと小さな交流会始まる

小杉駅周辺住民同士がつい、交流をとおしてコミュニティづくりを推進し、「住んでよかった街」「住み続けたい街」「いきいきと暮らせる街」「人と人の繋がりがある街」づくりの形成を図っている。



H23 継続中

■コスギフェスタ始まる

前年ハロウィンの時期にマンションを回ってお菓子をもらう企画を実施したのをきっかけに「子供たちに故郷を」を合言葉に再開発地域初のイベントとしてスタート。

H23 継続中

■周辺地域交流会始まる

再開発地区と周辺地域との交流を目的とした企画。各マンション、行政、町会、商店街、学校などの役員との交流。



H23 継続中

■こすぎナイトキャンパス始まる

「Open Book, Open Heart」をコンセプトにスタートした読書会。毎回共通の課題図書を手にした交流で、新しい輪が生まれてきた。

H23 - H27 終了

■男前料理教室

男性向けの料理教室。初めは講師をお願いして料理を教わるというスタイルで始まったが、メンバーで料理をつくり合う企画なども行った。

2007
H19

2008
H20

2009
H21

2010
H22

2011
H23

2012
H24



H19 継続中

■地域清掃活動

設立当初より継続している活動。毎月第一土曜日の朝8時より、エリマネ事務所からマンション及び地域住民が一緒になって、街をきれいにするために、エリマネ事務所からJR武蔵小杉駅北口まで一帯の清掃活動を行っている。



H19 継続中

■パパママパークこすぎ始まる

地域の子育て交流、ホッとできる集いの場。友達作り、情報交換のできるサロン。卒業生1万人突破!



H20 - H23 終了

■こすぎ子ども探検隊

地域に伝わる伝統文化や歴史、自然に触れながら楽しく学び、子供同士、親同士の交流を図る企画。

H24 継続中

■こすぎの風(機関誌)発刊開始

当NPOの機関誌。各ワーキンググループの活動報告や、地域にお住まいのキーマンへのインタビューなどを中心に年1回、約6,000部発行している。

H24-29 卒業

■KSG48結成

武蔵小杉発のダンスグループを結成。初めは3歳から60代までのメンバー構成だったが後に子供たち中心にシフト。

H24 継続中

■コスギ防災フェス開催

第1部ではマンションごとに各々の防災活動を行い、第2部では防災に関する各種イベントを合同で行った。専門家の講演、長周期地震動を再現できる震動台体験、いらなくなったおもちゃを持ち寄り防災に関するワークショップを行うイザ!カエルキャラバン等を行い、子供を含め多くの住民が参加した。

H24 終了

■親子料理教室

男前料理教室に参加したお父さんが家で料理の腕を披露したことがきっかけで子ども達からも要望がありスタート。



H24 終了

■ダイエット格闘技

ポクササイズによるダイエットを紹介。参加者で汗をかいた。ゲストに総合格闘家の所英男さんをお呼びした。



H24 終了

■子どもサッカー教室

川崎フロンターレと協力し、体験型の企画を通してサッカーの楽しさを紹介。親には食育をテーマに座学を行った。

H24 終了

■夜回り

川崎フロンターレの選手やふろん太くん、ワルンタくんとともに、小杉駅周辺の住民がピブスを着て拍子木をたたきながら小杉駅周辺を歩き、火の用心を呼び掛けた。

H25 独立

■ プラスケアプロジェクト

「病気になるまいち/病気になるでも安心して暮らせるまち」を目指して、医療関係者とエリア住民が協同で立ち上げたプロジェクトで、「食」「運動」「癒し」に関連した様々なイベントを実施した。

H25 終了

■ まちの課題解決プロジェクト

「まち・ひと・せいかつ」を繋ぐアイデア発想&実践ワークショップと題して参加者が課題を洗い出し、自ら解決方法を議論発表し実践につなげた。

H25 終了

■ 防災シンポジウム

NHKとのコラボで行ったイベント。解説委員による講演と番組出演者によるワークショップを通じて子育て世代、高齢者が昼間の災害にどう備えるかについて考えた。



H26 独立

■ こすぎの大学始まる

武蔵小杉周辺に関わる人を対象に参加者を募り、先生役を迎えて講義を行い、ワークショップを通して街の課題解決などを考える。

H26 継続中

■ 第2回こすぎ防災フェス

命と家族を守る体験と題して、今後起こり得る地震など災害に備え、参加型・体験型の展示を行いました。災害時のトイレ体験、伝言板体験、豪雨体験、非常時ごはん体験等々多くの体験を通じ、楽しみながらも備えの重要性を感じられるイベントとなった。

2013
H25

2014
H26

2015
H27

2016
H28

2017
H29

2018
H30

H26 終了

■ 防犯イベント 小杉っ子探偵団開催

プロの指導員のもとで子どもたちが街歩きをして、「見えにくい・危ない場所」を見つけて地域安全マップを作成する子ども防犯イベントを開催した。

H26 継続中

■ 理事長情報交換会始まる

会員マンションの理事長、副理事長が集まり、毎年1回、理事会運営や管理組合問題などを一緒に考えていく会。理事長同士での活発な意見を行い、交流を深めている。

H26 継続中

■ 会員マンション共益検討会 始まる

唯一、会員マンションに焦点を絞り、有益なテーマでセミナー・情報交換会を催し、管理組合に貢献する活動



H27 独立

■ 「こすぎ舞祭」始まる

川崎発一じゃんダンスとして認知されていた舞祭を川崎の真ん中にある武蔵小杉でやりたい!を「こすぎコアパーク」で実現した。

H27 継続中

■ マンション管理セミナー始まる

一棟で町内会規模の住戸のマンションが林立し、管理組合の運営の一助になればとの意図からマンション管理・運営のノウハウを学ぶセミナーを実施した。

H27 継続中

■ 「コスギカレーフェス」始まる

武蔵小杉はカレーの街と外部にアピールすることで、カレー好きのたくさんの人が訪れ、武蔵小杉活性化のきっかけとなった。

H27

■ NHKクローズアップ現代にて エリマネが取りあげられる

「どうする地域のつながり」というテーマで、従来の町内会の枠にとどまらない新たな組織づくりを行っている組織として、武蔵小杉のエリマネの活動が紹介された。

H27 継続中

■ こすぎコアパーク 管理運営協議会設立

「こすぎコアパーク」を有効利用することによって武蔵小杉周辺を活性化させるために、エリマネ、商店街、町会が一緒になって設立しました。



H28 継続中

■ コスギオープンカフェ始まる

「こすぎコアパーク」を有効利用することによる武蔵小杉活性化の実証事業と位置付けて中原区と共に開始した。



H28 継続中

■ ラジオ番組 コスギスイッチON! 始まる

武蔵小杉や川崎の今を伝え残すトークバラエティ番組、ラジオ コスギスイッチON!がかわさきFMで放送開始。パーソナリティは武蔵小杉の年間行事の司会に欠かせない存在に。

2016
H28

2017
H29



H27

■ 「いすー1グランプリ」開催

全国的に展開している「いすー1グランプリ」を武蔵小杉活性化に役立てようと「コスギフェスタ」の企画として採用しました。

■ 中原区の人口	H19年	219,728人	■ 東急東横線武蔵小杉駅 1日乗降客数	H18年	158,693人
	H29年	254,156人		H28年	175,059人
■ JR 武蔵小杉駅 1日乗車人員	H18年	72,846人	■ 固定資産税課税額(土地)	H19年	5,889,695,900円
	H28年	128,079人		H29年	7,199,892,400円
■ 固定資産税課税額(家屋)	H19年	6,044,063,600円			
	H29年	8,311,086,200円			

川崎市公式ウェブサイトより引用



第1号

- わが町小杉
- ちょっと小さな交流会
- コスギフェスタ戦記2011



第2号

- コスギフェスタ2012スペシャルインタビュー
- あの人に会いたい!「所英男さん」
- 活動報告



第3号

- あの人に会いたい!「佐々部清さん」
- コスギ防災フェスレポート
- エクスタワー武蔵小杉 25年の軌跡



第7号

- あの人に会いたい!「尾木孫三郎さん」
- 各ワーキンググループ活動レポート
- コスギNo.1プロジェクト始動



第8号

- 各ワーキンググループ活動レポート
- コスギスイッチON!始動
- 編集長インタビュー「新理事に聞く」

こすぎの風 10 年史

エリマネの機関紙「こすぎの風」も
エリマネの10年の中で10冊が刊行されました。



第4号

- コスギフェスタ2013パンフレットと合体
- コスギフェスタ連動コンテンツ
- まち・ひと・生活レポート



第5号

- あの人に会いたい!「西智弘さん」
- 武蔵小杉駅前の新たなランドマーク
- ふろん太と学ぼう!
自転車マナーとまちのあふないところ



第6号

- こすぎの大学活動報告
- ワーキングマザー交流会レポート
- こすぎ防災フェスレポート



第9号

- タイトルロゴ・誌面リニューアル
- 地域の見守り活動レポート
- 街づくりミーティングレポート



第10号

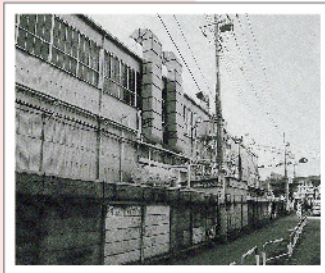
- サークル活動紹介
- I Love Kosugi Club 紹介
- ちょっと小さな交流会レポート

武蔵小杉 新・旧比較

1930~2018

東京機械製作所

東京機械製作所の創業は、明治7年。玉川製造所がここに出来たのは昭和12年。中原の地域の発展に長く貢献。平成23年4月、木更津へ工場が転出。跡地に「グランツリー武蔵小杉」が立てられた。



東光ストア

写真は、昭和46年当時のもの。東光ストアは、昭和39年に、現在の小杉ビルの所にショッピングストアとして発足した。この場所には、昭和44年に移転開業した。後に東急ストアになり、昭和60年頃移転した。



武蔵小杉バスターミナル

武蔵小杉駅前バスターミナル。昭和41年の写真。当時は東急バスと市営バスの2社が運行していた。写真上部が東急東横線の線路。右側がJR武蔵小杉駅。昭和39年に写真手前の小杉会館が建てられた。



小杉会館

写真は、昭和43年当時のもの。昭和39年に武蔵小杉駅前左側に小杉会館が建てられた。各店センター内の1Fに東光ストアが入り、2Fには、第一生命、洋食喫茶、美容室、サロン、ビリヤード、歯科医院、理髪店が入っていた。左は現在の小杉ビル。



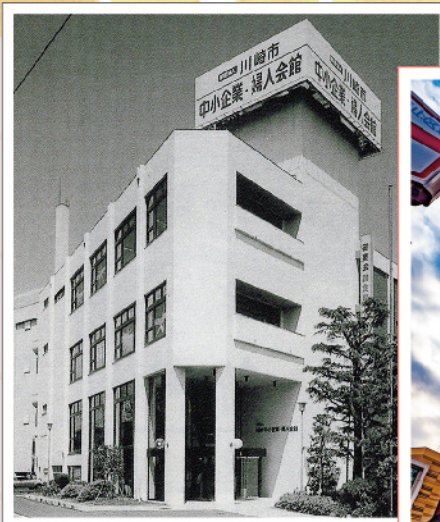
東京電力中原変電所

写真は、昭和41年当時のもの。右側は、公団住宅で、1Fはスーパーサンコー（現在マルエツ）である。右上の改修中ビルは聖マリアンナ医科大学東横病院で、左側上部に、東急東横線、東京機械製作所が見えている。平成25年4月から、現在の武蔵小杉東急スクエアが開業している。



川崎市 中小企業・婦人会館

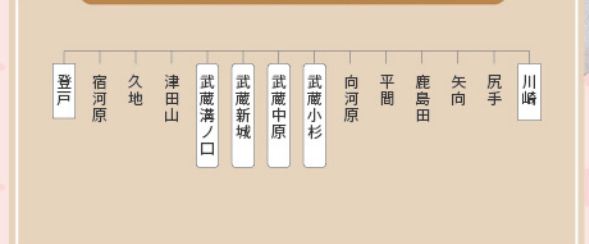
写真は、昭和51年当時のもの。川崎市が、ボウリング場を買い取り、大改修して、中小企業会館が昭和51年オープンし、平成19年に閉館した。跡地には、パークシティ武蔵小杉 ザ グランドウイングタワーが建てられた。



南武線沿線案内図(昭和5年)



南武線沿線案内図(平成31年)



監修：羽田猛氏 出典：中原街道と武蔵小杉一写真で綴る周辺の今昔一(羽田猛 著) 現写真撮影：本平基(株式会社fawn) 協力：新小杉開発(株) / 東日本旅客鉄道(株) / エラスター武蔵小杉管理組合

コスギフェスタ

歴代ポスター

コスギを彩った
各回のポスター
デザインを
一挙掲載！



2011年 | 第1回

当時すでに入居していた6棟のマンションの有志が集まりスタートした初めてのコスギフェスタです。「武蔵小杉を子ども達のふるさとにする」をスローガンに、トリックオアトリート・スタンプラリー、仮装コンテストを中心に開催しました。



2012年 | 第2回

初回開催成功がコスギフェスタのスタッフをさらに熱くさせて、来場者にも仮装してもらいたいとの思いから「なりたい自分になれる街」をサブテーマに第2回コスギフェスタを開催しました。来場者数は12,000人を数えました。



2013年 | 第3回

コスギフェスタがこの地域に認知され、地元の企業やスポーツ団体の協力が得られるようになったのが第3回コスギフェスタでした。恒例のトリックオアトリート・スタンプラリー参加者は1,200人に達し、来場者数は30,000人となりました。



2014年 | 第4回

記念すべき第4回コスギフェスタはエリマネと武蔵小杉商店街の共同開催（コスギフェスタ実行委員会主催）となり、メイン会場も「こすぎコアパーク」に移り、マンション住民のお祭りから武蔵小杉のお祭りになりました。来場者数は50,000人となりました。



2015年 | 第5回

第5回コスギフェスタではさらに規模が大きくなり、これまでの1日開催が3日間開催となりました。新企画もカラーフェス、いすー1グランプリ、赤ちゃん企画、教育No.1と増え、名実ともに武蔵小杉最大のお祭りとなり、来場者は10万人となりました。



2016年 | 第6回

前夜祭（カレー EXPO）、本祭は昨年と変更なく、最終日は慶応大学Joint主導で、誰もが参加できる「コスギンピック」に変更となりました。恒例のトリックオアトリート・スタンプラリーは、ついに参加者3,000人に到達し、3日間の来場者数は11万人となりました。



2017年 | 第7回

第7回コスギフェスタは、台風の近づく天候の中、前夜祭と本祭は、小雨の降り続く中、予定通りに開催されましたが、最終日の「コスギンピック」は、豪雨警報が発令され、コスギフェスタ史上初めての中止となりました。それでも2日間で5万人の来場者でした。



2018年 | 第8回

「コスギンピック」を6月3日に単独開催したことにより、第8回コスギフェスタは2日間開催となりました。子ども達の成長を考慮して小学生高学年向けの「謎解きラリー」及び「体験できるスポーツ企画」を用意しました。2日間の来場者は8万人となりました。

10年誌を発行するにあたって

NPO法人小杉駅周辺エリアマネジメント
理事長 安藤 均

NPO法人小杉駅周辺エリアマネジメント（略：エリマネ）は、平成19年4月2日に設立されました。現在の事務所の場所は、元々は企業のグラウンドや工場などがあり、人が住んでいませんでしたが、川崎市まちづくり局が、武蔵小杉に大規模な再開発事業の計画を誘導していました。再開発により、武蔵小杉に約20,000人の人たちが移り住んでくることでした。そのため、川崎市まちづくり局の主導のもと、新旧住民の交流を深めていくためのコミュニティを形成する新しい組織としてエリマネが誕生しました。10年という歳月で、街は変わり、交通の便もよくなり、商業施設も建設されました。現在、エリマネの会員マンションは9棟で約5,000戸になり、「住みたい街ランキング」では、上位に位置するようになりました。変貌した武蔵小杉において、この街に住んでいた地元の方々、新しくこの街に移り住んできたの方々、この10年間に武蔵小杉に対するそれぞれの思いがきっとあると思います。エリマネの活動を通じ、皆様のそれぞれの思いを10年誌で振り返りながら、武蔵小杉が平成に続く次の世代でも住み続けたいと思えるような街になってほしいという願いから、発行するに至りました。エリマネ10年誌をぜひごらんいただきたいと思います。

発行： NPO法人 小杉駅周辺エリアマネジメント
Non-Profit Organization MUSASHIKOSUGI Area Management
川崎市中区中丸子112番地3
TEL: 044-433-9180 (事務局)
https://musashikosugi.or.jp

【10】編集スタッフ 発行人・編集長：安藤 均 デザイン・編集：株式会社 fawn (本平 基) 発行日：2019年4月
編集委員：豊田 浩人・野崎 克彦・高松 純・青山 巧・松尾 寛・伊原坂 通・塚本 ひと

表紙作者紹介

山形県の真ん中あたり生まれ。高校卒業後河合塾に進学したのち、千葉大学工学部工業意匠学科卒業。凸版印刷勤務を経て、2004年からグラフィックデザインスタジオ「アガスケ」として活動。デザインとともにイラストレーションを数多く手がける。犬派。

ナオヤ Naoya Graphic Designer + Illustrator

